

法人名	大阪外環状鉄道株式会社
作成(所管課)	都市整備部 交通戦略室 鉄道推進課

## ○ 経営目標設定の考え方

### ミッション

○鉄道施設を保有する第三種鉄道事業者として、第二種鉄道事業者であるJR西日本と連携し、おおさか東線の鉄道施設、設備の安全管理を行う

○建設費用として調達した地元自治体及び金融機関からの借入金について、JR西日本からの線路使用料や高架下用地の貸付による収入を確保し、計画的かつ着実に返済していく

#### ■ 大阪府の施策

- ・都市内交通の円滑化

### 基本方針

#### 1 鉄道施設、設備の安全管理

- ・鉄道施設等の所有者として、おおさか東線の運行主体であるJR西日本とともに、鉄道の安全・安心な運行を確保できるよう、安全管理の徹底に努める。

#### 2 経営基盤の強化

- 1) 借入金の計画的返済  
おおさか東線の整備に当たり、地元自治体及び金融機関から調達した借入金について、計画的かつ着実に返済を進める。
- 2) 高架下等の貸付  
高架下等について事業者に貸し出しを行い、店舗、資材置き場、駐輪駐車場として活用するとともに、安定的な高架下貸付賃料を確保する。

- 3) 現預金の適正な管理  
現預金を、金融機関借入金の一括返済の原資とするとともに、現預金保全におけるリスク分散化を念頭に適正な資金管理を行う。

### 戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

#### ① 鉄道施設の検査・工事の適正実施確認

- ・検査・工事の不備による事故防止  
【0件(R7実績)→0件(R12)】

#### ② 安全に対する意識の醸成

- ・運輸安全マネジメントの実践

#### ③ 借入金の計画的返済

- ・返済額  
【10.40億円(R7実績)→8.6億円(R12)】
- 〔借入金残高  
600.65億円(R7実績)→482.1億円(R12)  
金融機関調達分92.9億円は、R9年度末までに  
残額一括返済〕

#### ④ 高架下の貸付

- ・高架下貸付面積  
【61,847㎡(R7実績)→64,000㎡(R10)、  
さらに上積み(R12)】

○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 [見込値]	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R8～R12)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8 目標値	最終年度 目標値	
① 鉄道施設の検査・工事の適正実施確認	検査・工事の不備による事故防止		件	0	0	0	50	50	0	50	0	0	検査・工事の不備による事故ゼロを目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>・当社は、大阪外環状線(おおさか東線)の整備プロジェクトを目的に設立された会社であり、鉄道事業法に基づく建設・保有を行う第3種鉄道事業者である。建設事業完了後の現在は、鉄道施設を保有する第3種鉄道事業者として、おおさか東線の鉄道施設、設備を安全に管理することが最重点目標である。(運行は第2種鉄道事業者であるJR西日本及びJR貨物)</p>												
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>・限られた人員・組織体制の中で、検査及び工事等の実務を担うJR西日本との連携に不備がなきよう、社員はもとより社長、役員(安全統括管理官)も関与した体制で取り組む。</p> <p>・運輸安全マネジメントを通して、検査及び工事等の実務を担うJR西日本との連携を図りながら、社長、役員も関与して、検査・工事等の手続及び内容に対して適正な実施確認を行う。</p> <p>・おおさか東線の鉄道施設、設備の保有者としての責任を意識できるよう平素から社員の安全に関する意識の醸成に努める。</p>												
活動方針	<p>・運輸安全マネジメントを通して、鉄道の安全を最優先に、JR西日本による鉄道施設の検査及び工事計画に対し、検査・工事の内容及び手続等に不備がなきよう徹底する。</p>												

**II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)**

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 【見込値】	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R8～R12)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
② 安全に対する意識の醸成	運輸安全マネジメントの実践		項目	3	3	3	10	10	3	10	-	-	・安全管理を実施するため①高架下 工事の安全実施、②安全研修の実 施、③安全レビューの実施の3項目 に取り組む。	・安全管理を実施するため①高架下 工事の安全実施、②安全研修の実 施、③安全レビューの実施の3項目 を、安全施策として計画・実行し、 実行状況に対する評価及び改善を行 う「運輸安全マネジメント」の実 践を通して安全に対する意識の醸 成を図る。

**III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)**

③ 借入金の計画的返済	返済額		億円	13.73	10.40	10.40	30	30	47.5	30	-	8.6	借入金については、今後とも新規借 入を行わずに返済することとし、その 上で中期経営計画において、R9年度 末までに金融機関借入金の残額92.9 億円を一括返済することとしており、 R8は金融機関分残額の概ね1/2を返 済	・現預金の資金の適切な管理を行い、金融機関からの借入金に ついて、一括返済についての協議を進める。
④ 高架下の貸付	高架下貸付面積	☆	m <sup>2</sup>	(58,059)	-	(61,847)	-	-	63,000	10	-	64,000以上	R10年度末までに貸付面積64,000m <sup>2</sup> の早期達成に向け、残る貸付面積の 現地状況を勘案	・貸付面積増に向け、高架下の環境整備の推進や営業力を強化 する。
高架下の有効利用	高架下貸付面積率 (貸付中面積/貸付対象全面積)		%	90.7	94.0	96.6	7	7	-	-	-	-	-	-
事務処理の効率化と適正な人員配置	一般管理費		千円	106,631	104,000	×106,042	3	0	-	-	-	-	-	-

<b>R7得点合計 【見込得点合計】</b>	<b>97</b>
----------------------------	-----------

【凡例】

- ・☆はR8年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・（ ）内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 目標値未達成の要因について

法人名	大阪外環状鉄道株式会社
-----	-------------

[1]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
一般管理費	千円	104,000	106,042	2,042

未達成の要因		要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	人件費の増加	部外委託費の見直し等により物件費の節減を図った一方で、賃金改定を含めた現行給与水準により、当初の想定(中期経営計画策定時:2021年2月)よりも人件費が増加した。							
	関連項目名	人件費	単位	千円	R7当初想定値	81,000	R7実績値(見込)	84,193	差

今後、人件費や物価の高騰等上昇リスクに対しては、経営基盤の強化等により収支の安定化を図る。  
 なお、今後も一般管理費が必要以上に増加しないように努めていく。

法人名

大阪外環状鉄道株式会社

## ■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

〔1〕

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
高架下貸付面積率 (貸付中面積／貸付対 象全面積)	%	94.0

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
高架下貸付面積	m <sup>2</sup>	63,000

成果測定指標の 変更を 希望する理由	<p>現在、貸付対象としている上限の面積は64,000m<sup>2</sup>であり、まずは、全面積の貸付を目指す。その上でJR西日本が管理している高架下用地から、新たに貸付対象となるよう協議を行い、貸付可能面積の上積みを図ることを中期経営計画に定めており、今後は成果測定指標を高架下貸付面積に変更するもの。</p>
--------------------------	---

〔2〕

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
一般管理費	千円	104,000

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
—	—	—

成果測定指標の 廃止を 希望する理由	<p>人件費等の縮減可能な部分については既に縮減を行っており、昨今の物価上昇の状況を踏まえると、一般管理費のこれ以上の縮減は困難であることから、成果測定指標を廃止するもの。 なお、今後も一般管理費が必要以上に増加しないように努めていく。</p>
--------------------------	--

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
運輸安全マネジメントの実践	項目	3	3

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>人の命を預かる鉄道事業者としては、その施設、設備の安全管理に対する姿勢・考え方として、不断かつ確実な取り組みを緩めることなく着実に継続・維持していくことに力点を置いています。</p> <p>引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①高架下工事の安全実施(OSRが発注するフェンス設置等の高架下整備工事における重大事故ゼロ)、</li> <li>②安全研修の実施(全社員を対象とした研修・訓練の実施)</li> <li>③安全レビューの実施(経営トップ主導のもと1年間の安全管理への取り組み状況を評価し、次年度の取り組みに反映させる)</li> </ul> <p>の3つの取り組みを、計画・実行・評価・改善(PDCAサイクル)を通して、毎年その内容の改善を実施し充実するよう取り組みます。</p> <p>&lt;R8改善点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高架下工事の安全実施:歩行者・自転車の往来が多い箇所での工事が予定されており、労働災害のみならず公衆災害も防ぐよう業者指導を行うこととしています。</li> <li>・安全研修の実施:R8は、災害時に出勤不能社員が発生した場合の対応(ITシステムの改善による情報共有等)を検討。</li> <li>・安全レビューの実施:他社の事故情報等を安全教育の材料や現場巡回時の情報を確実に共有する等</li> </ul>
-----------------------------------	--

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	
-----------------------------------	--